

地区だより

VOL 4 1988.4.25
発行 西湘放射線技師会

桜吹雪と共に、野山の草木もあるものは花をあるものは若芽を競り合うかの様に、春の陽射しの中で彩れば、自然と人の心も和み希望に満ち溢れる季節「よくぞ、自然界に生まれけり」と言った心境の昨今です。

会員の皆さまに於かれましても、老若男女問わず、御健勝にて此の良き春の日を御満悦のことと思います。

全てのものに、自然が与えたこの恵を人生の為、西湘放射線技師会の為に、多いに役立てて行きましょう。会員個人々がお互いの協力、意思の疎通、そして有機的な和の中で楽しく、進歩発展を願い国民医療、地域医療の為に微力ながらも役立つことが出来ます様、努力致しましょう。

西湘放射線技師会副会長 宗像 源二郎



総会報告

3月18日(金)市立病院会議室に於て、西湘放射線技師会総会が会員47名(委任状を含む)出席で開催されました。中静議長・藤井・香取書記を選出し会長挨拶の後、議事に入り総会資料に沿って小宮理事から事業(活動)報告、高橋理事から決算報告、本郷監事から会計監査報告があり、それぞれ承認されました。次に水沢会長より63年度予算案・事業計画案の説明があり会員の意見を求めた所、予算額に対する質問、レクリエーション運営への要望、「地区だより」の発行部数についての意見等があり、各々の意見に沿った運営をする事で満場一致で承認されました。その後、山田理事から地区委員会報告があり、宗像副会長の閉会の辞で総会を終了しました。

続いて勉強会のパネルディスカッションが行われ、「下部消化管撮影の現状」について、活発な意見が交換されました。 「橋本 実」

地区委員会報告

- * 県放射線技師会総会（3月26日）報告
会員数956名中 出席者+委任状は過半数を満たし成立した。
S. 63年度事業計画案、予算案は承認された。（会誌NO. 93）
地区委員会に関する予算 63年度予算額 地区委員会運営費26.1万円
地区助成金 会員1人200円/年
S. 63, 64年度役員選挙で立候補者0, 山本会長も次期会長候補を強く辞退された状況の中、最終的に新役員選出の運びと成った。
（新会長, 山本 洋一 新監事, 小野瀬 国正 高野 達夫）

- * 県放射線技師会決算総会 5月28日（土）予定

- * 特別委員会新設
（1） 県内放射線技師需給検討委員会（発会1/11）
（2） 技術学会神奈川支部のあり方検討委員会（1/13）

- * 中長期将来計画委員会の報告事項
刊行物を全会員に配布する予定（6課題19項目）
主な内容 県放技運営上の問題（5年, 10年後）
放射線技師像、業務分担のゆくえ
地域社会への対応
医療関連団体との交流
渉外活動
技師会、技術学会支部との関係

- * 県会員名簿作製準備中 新配布 11月末頃

- * 第4回 神奈川県学術大会 6月19日 横浜市福祉会館
テーマ 「救急医療体制について。」

- * 63年度 神奈川県講習会予定日（6回分）
9/11, 10/16, 11/13, 12/4, 1/8, 2/5

以上（山田）

— 病院紹介 —

丹羽病院

当院は昭和44年11月に丹羽診療院と称し、ベッド数44床で開設しました。初代院長である高山欽哉は、その当時まだ未知の分野であった脾臓病について、臨床研究を重ねていた草分け的存在でした。

昭和53年、医療法人社団帰陽会 丹羽病院と称し消化器科をメインとして、外科・内科を標榜しベッド数は68床となりました。

昭和59年には二代目院長に、南 康平が就任して現在に至っています。

病院職員数は約61名（医師・看護・放射線・検査・給食・事務・病理・エコー・内視鏡・営繕・リネン）の各部門があります。

当院の特徴としては、開設以来一貫して癌の治療対策に取り組んできたことです。癌は早期発見が一番大切なことで、過去4年間において当院では早期胃癌の発見率は平均52%の高率で進行癌は48%になります。

早期胃癌は胃切除により100%治癒します。進行胃癌も諦めずに手術をすると、その60%が完治するので、全体の約28%が死なないで済むことになります。故に、胃癌全体の治療成績は80%（早期発見52%・進行癌28%）と完全に治ることになり、専門病院の中でもレベルは高い方といえます。

撮影室は2室で、第一レントゲン室には、高電圧発生装置（東芝KXO-15）が1台で一般撮影天井走行（東芝DS-PB）・直線断層撮影（東芝LGD）・暗室透視（東芝CAE）の三管球の組み合わせです。

第二レントゲン室には、高電圧発生装置（東芝KXO-850）が1台でTV透視（東芝DT-AV）血管撮影用天井走行（東芝DS-PF）の二管球の組み合わせです。

回診用装置は、日立ソラックス70・暗室には富士RU-2の自動現像機とDR-100のオートフィーダが入っています。

午前中の検査は、胃・大腸等の消化管撮影と一般撮影が主となり、午後は血管造影・尿管造影等の特殊検査と大腸ファイバーが主となります。

当院は、消化器科がメインではありますが、胃・大腸の検査は一日に一件の割合です。その理由は、初診の患者は診察、採血、エコー、内視鏡の順序で回っていくことが多いからです。必然的に胃X-Pは精査的要素が強く、手を抜いた写真を撮ると、たちまち読影者からクレームがつくので、常に最善をつくすよう心がけています。

病院としては小規模ですが、職員の平均年齢は31歳と若く、柔軟な考えと行動力を生かした患者サイドに立ったチーム医療を目指してがんばっています。

時代の変化に伴い、レントゲンも総合画像診断の一部と変わりつつある今、我々技師も、技師会を通し新しい知識、技術をどんどん取り入れて、共に地域医療に貢献していきたいと思っておりますので、これからも宜しくお願い致します。 「丹羽病院 高野 紀三夫」

□ 訪問記 □

今回は、4月2日に技術学会発表を終えて、一息ついている高野・駒木両氏の勤務する丹羽病院を訪問しました。

限られたスペースの中に、高率よく配置された機器類と、活気のあるレントゲン室、医師とパラメディカルスタッフのコミュニケーションが非常に良く、恵まれた環境で仕事ができ、研究ができることが羨ましく感じられました。

胃腸科専門という、技師としてはより高度な技術を要求される環境で、日進月歩の医療を支える両技師のますますの御活躍を期待しています。 「徳安 俊二」

